



山梨県  
清里

清里（きよさと）は、清里高原といわれ、歌手・女優の山口百恵さんが、別荘地として紹介したことなどが契機となり、若い女性に人気が出た避暑地です。

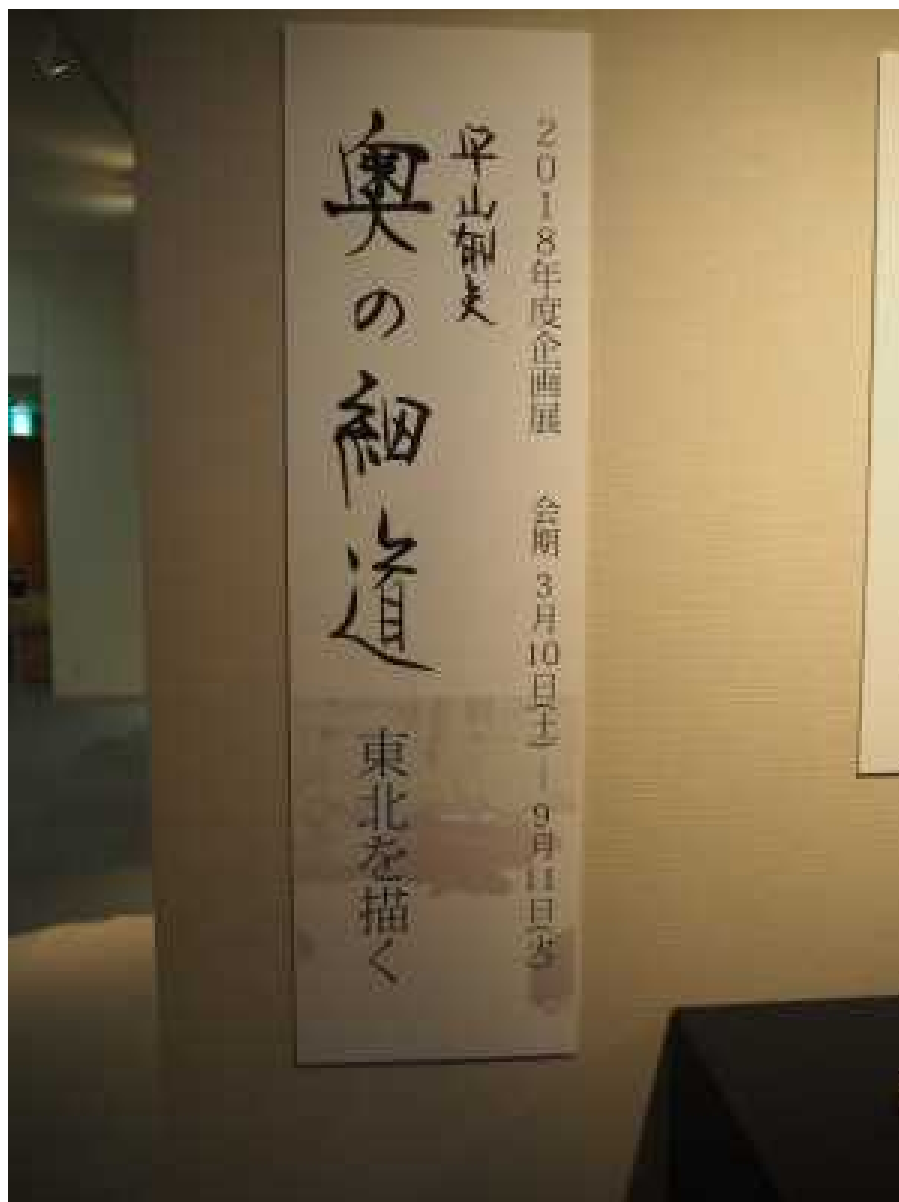
東京や名古屋からも近い、本州の中央に近いところに位置し、山梨県北杜市、ハケ岳連峰の南麓に位置しています。緩やかに広がるハケ岳の裾野と、変化に富む富士山や南アルプス等 3,000メートル級の山々とのコントラストが美しい高原として知られています。

四季がはっきりとした自然やのどかに点在する牧場、美術館や各種スポーツ・登山・トレッキングなど、観光だけでなく、幅広いアクティビティの地でもあります。

また、温泉地でもあり、北杜市五酒（ウイスキー、ワイン、ビール、日本酒、焼酎）を生産している地でもあります。高原野菜の天国ともいわれ、瑞々しい野菜をいかした料理も楽しめます。

## 山梨県 平山郁夫シルクロード美術館 4

平山郁夫先生 奥の細道を行く



### 平山部と日本書紀の記載

平山部は中韓に属する(日本書紀6巻)が、そのトーマス・マサハルが『東シベリアの歴史』で述べた時、朝鮮の平山部は平山に属する(日本書紀6巻)と述べている。平山部は、平山郡(平山)の平山に属する(日本書紀6巻)と述べている。平山部は、平山郡(平山)の平山に属する(日本書紀6巻)と述べている。

平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。

平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。

平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。

平山部と日本書紀

### 奥人部説

平山部

奥人部説は、平山部は日本書紀6巻(1100年)の奥人部に属する(日本書紀6巻)と述べている。奥人部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の奥人部に属する(日本書紀6巻)と述べている。

平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。

平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。

平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。

平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。

平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。

平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。

平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。平山部(1100年)は、日本書紀6巻(1100年)の平山部に属する(日本書紀6巻)と述べている。

『日本書紀』6巻、1100年

## 日本の風景

平山郁夫は「シムクロードの画家」として広く知られているが、みずみずしい日本の風景も数多く描いている。若かりし1959(昭和34)年、東京藝術大学の留学の時、学生を指導して東北写生旅行に行き、奥入瀬渓流や八甲田山などを巡った。当時は差別による後遺症で体調も思わしくなく、また創作上の不都合なども重なった時期でもある。そのような状況の中で見た奥入瀬渓流について、平山は「生きる喜びを心から観えてくれた」という。そして、この時の思いをいずれ作品に現すことを強く決意し、この写生旅行から35年後の1994(平成6)年に『奥入瀬断片(奥入瀬渓流)』を六巻一冊の大冊で発表した。

平成に入る頃、平山はシムクロードの各国へ取材旅行に出た時期もあり、改めて「日本の歴史と文化や風土の關係に興味が持った」という。画家は日本の原風景となる場所や、古くから歴史や文化が流れてきた道、場所などにも注目し、特に街道を描いた「道」シリーズでは、衣食住や季節感など細かな連作を描き進めていった。これらが描かれる当時、わが国では開発事業が盛んな頃でもあった。平山は古くから残る美しい道や自然など懐き想いを込めたという強い思いで生み出した作品が、この紹介する『奥入瀬断片(奥入瀬渓流)』(1997年)や、『奥島』(1997年)などの作品である。





04

Red Pillar  
Kobayashi Kiyomasa

小林清政の「朱の柱」は、  
江戸時代後期の浮世絵師として知られる。  
この作品は、その代表的な作風を示している。

江戸時代後期 浮世絵